

令和7年度第2回青梅市健康づくり推進会議（要旨）

令和8年2月10日（火）

13時30分～15時30分

青梅市議会棟大会議室

1 開会（司会 健康課長小林）

- ・配布資料確認
- ・神應副会長、森田委員、小花委員欠席
- ・挨拶（大木会長）
- ・傍聴者なし
- ・新任の御挨拶（川口委員）

2 意見交換事項（司会 大木会長）

(1) 健康づくりの推進施策について

【事務局説明】

- ・前回会議の発言にかかる対応の説明
- ・（健康ポイントアプリ「うめPON」について）
50歳未満の利用促進に注力していきたい。
- ・人数にこだわっている。単にチラシを配布するのではなく入会ブースを出すなど、入会に繋ぐことを意識していきたい。
- ・色々なことができるアプリであることの周知をしていきたい。
- ・地域対抗や年代対抗など、ウォークラリー企画は様々に考えられる。活躍する高齢者がいることなどを見せていくことも検討の余地がある。
- ・一般利用者の声はあまり拾って見せたことがないので工夫したい。
- ・入会までのハードルが結構あるので、短い言葉や視覚的に興味を持ってもらえるようなチラシに改定する。
- ・ファミリーにアプローチするようなのが今のアプリでは少し難しい現状がある。
- ・うめPONの中で検診の案内をするなど、若い世代、子育て世代への効果的な方法等について検討したい。

- ・(スライドを使ってアプリ入会者の状況、どういう感じで運用しているかについて説明)

【委員意見】

- ・アプリの名前は「うめ PON うめ PON」じゃなく「グッピー」なので周知に工夫が要るのではないかな。
- ・市役所の職員の健康管理の部署と連携して、職員の健康づくりにうめ PON が使えるのではないかな。
- ・LINE の周知は LINE で友達登録してる人しか見ないとすればそうでない層を開拓する方法を検討すべきでは。
- ・妊娠届を受ける時に、案内してみてもどうか。
- ・入会者の行動変容が拾えるか。その結果をこのアプリを使ってる人たちがアプリ上で見れるとよい。
- ・自治体順位とかも公表できれば頑張る動機になるのではないかな。
- ・イベントなど、シンプルで簡単に説明できる内容になっていれば、友達などにも紹介しやすい。
- ・個人のヘルスデータを加工できる仕組みは他の自治体でもニーズがあるのではないかな。機会を待たずニーズとして現在の事業者に言っていただくといいかもしれない。
- ・ゲーム性を上げる、登録を簡単にする、といったことに加え抽選のハードルを下げて買物に使いやすくするなど、利用者数や稼働率の増を狙ったもう少し大胆な手法が必要ではないかな。
- ・若い人はあまり健康を意識しないので、楽しく利用していて気づいたら健康というのが最も理想的ではないかな。
- ・市民の人たちの意見を常時間けるような機会、運営実行委員会みたいなのがあったらいいのではないかな。

【事務局回答】

- ・(いずれも検討してまいりたい)

(2) 自殺対策の推進施策について

【事務局説明】

- ・前回会議の発言にかかる対応の説明

- ・学校の前などに物理的に自殺できる場所があることへの対応が橋梁自殺対策協議会でできるものかは検討が要る。
- ・ゲートキーパー養成講座の中で希死念慮のある方を引き継ぐ先までちゃんと案内できるようにしたい。
- ・学校で起こる事案で見相に連絡、緊急性が高ければ警察というふうに制度上は整理されていても、現場対応として結局学校の負担になる例が少なくないのではないか。
- ・少なくとも緊急性の高くない案件を積極的に受けられるような体制を構築していくべきものと考えている。

【委員意見】

- ・ゲートキーパーの養成講座は対象が変わったのか。

【事務局回答】

- ・市民向けの講座と別に市の職員向けの講座を始めた。

【委員意見】

- ・こどもが「死にたい」とこぼすような場合に親の了解を得て、数少ない児童精神の専門医につなぐのは難しく、SOSが流されてしまうのではないか。関係部署や学校が入って過去の事例も紐解きながら検討するようなネットワークがあるといい。

(3) 青梅市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定について

【事務局説明】

- ・14日間のパブリックコメントを予定

5 その他

次回は委員改選ののち、別途案内となる。